

壁紙施工要領書
- スーパー強化+汚れ防止壁紙 -

■ 特長

-
- ・表面のビニル樹脂層を強化配合し、さらにエパールフィルム加工をすることにより、汚れや傷・破れ等に対して強いという特徴があります。

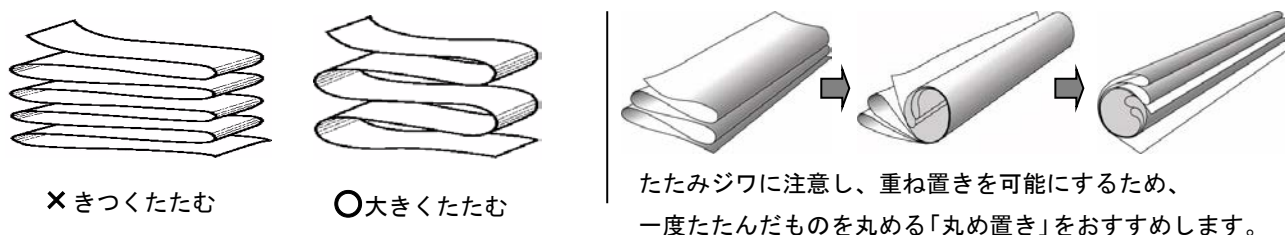
■ 下地調整

-
- ・施工後の、下地の不陸の目立ちを避けるために、下地面はできるだけ平滑に仕上げるようにしてください。
 - ・ネジ、釘類には錆止めを施してください。施工後の錆による変色を防ぎます。
 - ・下地と同色の樹脂入りパテを使用するようにしてください。強度の弱いパテはハガレの原因になります。
 - ・湿式工法による下地（コンクリート、モルタルなど）や、パテ・シーラーを施した場所は十分に乾燥（水分率11%以下）していることを確認してください。未乾燥状態での施工は壁紙の変色やカビの発生を招くことがあります。
 - ・ケイカル板、粉ふき下地、ペンキ下地、化粧板、パーテーション等、接着性の悪い下地は必ず下地別のシーラーを塗布してください。シーラーは下地を補強し壁紙のハガレや目開きを防ぎます。
 - ・基本的にはコンクリート・モルタル下地には不向きですが、必ず下地別のシーラーを塗布してください。ベニヤや合板下地でも同様です。下地からの水分によるフクレやアクによる変色を防ぎます。また、接着強度が悪い場合、下地の補強及び接着強度アップにつながります。
 - ・張替え下地の場合には、残紙はきれいに剥してください。浮き、ハガレの原因になります。

■接着剤と養生・オープンタイム

- ・接着剤は、接着強度が高く、濃いものを薄く塗布できる原液タイプをお薦めします。
- ・接着剤塗布後は、うませ時間を 20～30 分程度とって作業を進めてください。冬季・低温時には後伸びによるフクレを防ぐため少し長めにとってください。
- ・接着剤塗布後はタタミジワが付かないよう大きくたたみ、上積みは避けてください。フィルムが折れてしまいタタミジワが発生する場合があります。

◇糊付け後のたたみ方、及び、養生時のポイント



■張り付け・ジョイント

- ・通常の塩ビ壁紙に比べてややカール癖がつきやすい傾向があります。特に芯に近い部分や寒冷地では材料を逆巻きにする等、カール癖を取ってから施工するようにしてください。
- ・なかなかカール癖が取れない場合は、ジョイント部分にエチレン酢ビ系ボンドを原液で捨て糊する等の処置を施してください。
- ・なで付けの際は、プラスチック製のヘラを使用し、ていねいに繰り返し圧着し、エア抜きしてください。
- ・吸水性の低い下地（シーラー塗布面、化粧板、金属板、コンクリート等）に施工する場合も同様に繰り返し何度もエア抜きを行ってください。接着剤の水分を下地が吸収しにくいために、あと伸びによるフクレが発生する場合があります。
- ・石膏ボード下地等で重ね裁ち（ダブルカット）を行なう場合は、下地まで切り込まないようにしてください。目開きの原因となります。（壁紙と下地の間に下敷きを入れる、和紙テープを張り込む、といった注意が重ね切りの場合必要です。）
- ・出隅・入隅など角の出にくい場合は、下地側にエチレン酢ビ系ボンドを捨て糊するなどの処置を行なってください。また、角をしっかりと出すためには、角部分の壁紙表面からきれいな布で、角をしっかりと押さえながら擦ってください。
- ・ローラー掛けは丁寧に行なってください。エンボスがつぶれ光沢が増すため、ジョイントが目立ちやすくなります。
- ・冬季・低温時には壁紙が余計硬くなりますので、室温を 15℃以上に上げて施工してください。

■コーナー材の使用について

- ・コーナー材を使用する場合は、穴あきタイプが有効です。穴あきタイプ以外では接着剤が乾燥せず、壁紙が浮いたり、カビ発生の原因となる場合があります。ただし、穴あきタイプをご使用の場合でも使用環境や施工状況によっては、壁紙の浮きやカビが発生する場合があります。あらかじめご了承ください。

■施工後

- ・施工後は接着剤の拭き残しがないよう、きれいに拭き取ってください。拭き取りが不十分な場合、変色の原因になることがあります。なお、拭き取る際は、きれいな水に頻繁に替えながら濡れスポンジなどでていねいに拭き取り、更にキレイなタオルなどで拭き取ってください。
- ・施工後は接着が安定するまで自然乾燥させてください。急激な乾燥を防ぐため、窓やドアの開放による通風や直射日光、冷暖房などによる急激な室温の変化は避けてください。目開き、ハガレの原因になります。